

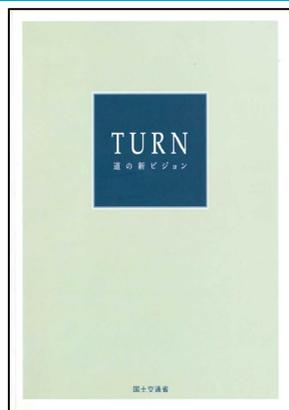
【参考】海外の主要な交通ビジョン(その1)

国	イギリス	フィンランド	アメリカ	アメリカ
ビジョン名	市長の交通戦略 (Mayor's Transport Strategy)	シティ・プラン2050	Go Boston 2030 Vision and Action Plan	Smart City
都市等	ロンドン	ヘルシンキ	ボストン	コロバス (オハイオ州)
策定年	2018年	2013年	2017年	2016年
期限 (目標年次)	2041年	2050年	2030年	2035年
将来予測	<ul style="list-style-type: none"> 2041年にロンドンの人口は1,000万人(現在870万人)を超え、1日当たり600万トリップが追加。 現状の交通サービスでは、増大する都市規模に対応不可 	<ul style="list-style-type: none"> 2050年までに人口86万人(現在約60万人)、雇用数56万人の国際都市となり、首都圏の中心。 中心部は、ビジネスの中心地で有り続けると同時に都市型のライフスタイル、レジャー、旅行にも快適な生活しやすい都市。 鉄道による都市圏内の連絡が強化され、圏内に新しい拠点を創出し、ヘルシンキは、欧州規模での大都市のひとつ。 	定量的に将来を分析 <ul style="list-style-type: none"> 多様な人口の増加 人種間や所得層間での所得格差の拡大 ナレッジエコノミーに係る労働者の増加 気候変動リスクの増加 温室効果ガスの削減の必要性 生活スタイルを変革する技術の登場 	定性的な分析 <ul style="list-style-type: none"> 人口の高齢化 人口密集地に移動する若年層の増加 近隣地域へのモビリティアクセス 住宅と商業、旅客と貨物、及び環境に関する問題を伴った経済成長および人口増加
将来像	<p>ヘルシー・ストリート: 市民が健康増進効果のあるアクティブ・トラベルに多くの時間を割けるよう、自転車利用者と歩行者を優先した魅力的な道路空間を増やす。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 2041年までに、ロンドン市民が、健康を保つために毎日20分のアクティブ・トラベルを実践出来るようにする。 2041年までに、ロンドンのバスサービス関連での重傷者・死者をゼロにする。 貨物車交通量(ピーク時)をロンドン全域で2041年までに10~15%減らす。 2041年までに全車両を排出ゼロ車両とする。 	<p>心地よい生活 郊外も取り込んだ多極型の都市圏の展開</p> <p>平等な生活 独自性を有した10拠点内での日常生活の機能を充足できるようにインフラを整備</p> <p>経済成長と雇用の創出 持続可能なモビリティの実現 トラムが整備され鉄道ネットワークを補完。公共交通のサービスレベルを向上させることで、中心部での自動車交通量を削減。自動車の速度を下げ、安全性を向上させ、騒音を減少。</p> <p>レジャー区域の創設 シーサイドエリアの開発 ヘルシンキの国際性と地域性の強化</p>	<p>アクセス:ボストンのあらゆる箇所が全モードの交通手段と接続。</p> <p>安全:人々が早くではなく安全に移動するため、道路上の衝突事故を大幅に減少させる。</p> <p>信頼性:公共交通、道路網による移動を予測可能にする。</p> <p><目標></p> <p>通勤時の公共交通利用の割合を現在の40%から1/3以上増加、一人運転の割合を現在の50%から半減など</p>	<p>美しく、健康で、豊かな都市:クリーンな交通手段の提供。自動車以外の交通手段の安全性の提供、スマート技術によるサービスの接続。雇用者・被雇用者市場の接続、適切な価格で信頼できる交通手段の選択肢の提供。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 2035年までに交通事故を現在より15%減 2035年までに通勤時の1人運転を現在の83%から78%に削減 2035年までにバス停から3/4マイル以内居住人口の割合を現在の69%から80%に増加
自動運転 新モビリティの 位置づけ	自動運転車両が安全に走行できるよう、市は、法的なフレームワークを策定する。		自動運転とシェアリングの普及により、既存道路の効率的利用が可能になる。	ラスト・ワン・マイル問題の解決のために、自動運転車両を含め実験を行う。

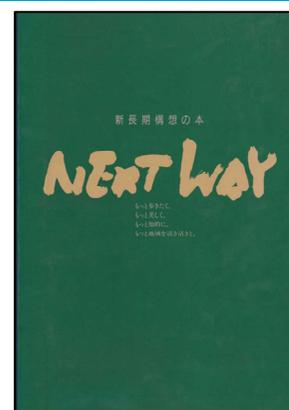
【参考】海外の主要な交通ビジョン(その2)

国	カナダ	カナダ	シンガポール
ビジョン名	Transportation 2040	Sidewalk Toronto	陸上交通マスタープラン2040 (Land Transport Master Plan 2040)
都市等	バンクーバー	トロント	シンガポール
策定年	2012年	2017年	2018年
期限 (目標年次)	2040年	2040年	2040年
将来予測	・過去15年について、バンクーバー市の住居人口、労働人口、市内に流入する自動車交通量の推移を分析		現状分析のみ ・鉄道駅から徒歩10分圏内の世帯割合 ・20km未満の公共交通トリップが60分以内で完了する割合 ・ピーク時間帯のトリップで公共交通が利用される割合
将来像	<p>経済 反映する経済を支える賢く効率的な交通システム</p> <p>人 安全でアクセス性がよく、活気ある都市の健康な市民</p> <p>環境 地球及び市民の将来を確かなものとするよう自然環境を大切にする都市</p> <p><目標> ・2040年までに全トリップの少なくとも2/3を徒歩、自転車又は公共交通 ・交通事故死者数をゼロ</p>	<p>交通システム 全ての移動に対し、安全で便利で接続され経済的に利用しやすい交通手段を提供し、車による移動ニーズを減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の拡大 ・年間を通じた徒歩・自転車利用 ・新モビリティや自動運転の利用 ・人優先の道路設計 など 	<p>20分の街区、45分の都市 ・近隣住宅の中心地まで徒歩、自転車、小型モビリティ、公共交通、シェアリングカーで25分以内で移動 ・ピーク時間帯における都市内トリップが徒歩、自転車、小型モビリティ、公共交通、シェアリングカーで45分以内</p> <p>全ての人のための交通 ・バリアフリー</p> <p>健康な生活、安全な移動 ・公共交通やアクティブトラベルの空間提供 ・クリーンエネルギー車両の普及 ・ビジョンゼロの安全環境</p>
自動運転新モビリティの位置づけ		2035年頃までに自動運転車両がライドヘイリングサービスの中心になる。自動運転車両は路上駐車場をなくし、道路構造を変化させ安全な人中心の公共空間を復活させる。	自動運転バスの開発、実証実験を行う。 新モビリティの利用を促進するとともに、利用マナーの啓発活動を行う。

【参考】道路局が策定したビジョン



TURN(平成14年9月)



NEXTWAY(平成24年8月)

	目的	目指す社会像	政策の方向性
TURN 道の新ビジョン	道路行政のどこをどう変えたいかを国民に伝える	「日本ブランド」を世界に発信 ポテンシャルを活かす効率的な社会システムの実現(日本の良さを引き出せる社会)	道路行政システムの改革 1. 評価システムの導入 2. 開かれた行政 3. 有料道路制度の見直し 4. 道路特定財源の活用
新長期構想の本 NEXTWAY	これまでの道路と社会の関係を見つめ直し、これからの道路のあり方を提案	活力ある経済活動を営むなかで、労働時間の短縮等による時間的なゆとり、質の高い道路・住宅等の整備などによる空間的なゆとりの充実を図り、質の高い社会サービスのもとで、1人ひとりが心の豊かさや生きがいを感じることができる「ゆとり社会」	1. 豊かな生活の実現 (1)円滑なモビリティの確保 (2)安全なモビリティの確保 (3)快適な生活環境の創造 2. 活力ある地域づくり (1)交流ネットワークの充実 (2)「地域集積圏」の形成 3. 人・自然に優しい環境の形成 (1)地球温暖化の防止 (2)自然環境との調和 (3)沿道環境の保全

【参考】土木学会創立100周年宣言文

－あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く－（抜粋）

（今後目指すべき社会と土木）

4. 土木は地球の有限性を鮮明に意識し、人類の重大な岐路における重い責務を自覚し、あらゆる境界をひらき、**社会と土木の関係を見直すことで、持続可能な社会の礎を構築することが目指すべき究極の目標と定め**、無数にある課題の一つ一つに具体的に取り組み、**持続可能な社会の実現**に向けて全力を挙げて前進することを宣言する。

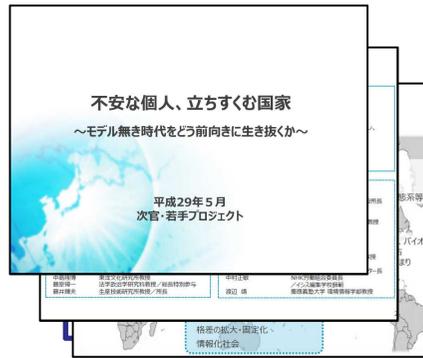
（持続可能な社会実現に向け土木が取り組む方向性）

5. （安全）社会基盤システムの計画的な利活用と人々の生活上の工夫で、**自然災害等の被害を減らし、安全な都市・社会の構築に貢献するとともに**、社会基盤システムの安全保障を継続的に強化して、**社会基盤施設が原因の事故で犠牲者を出さないこと**にあらゆる境界をひらき取り組む。
6. （環境）自然を尊重し、生物多様性の保全と**循環型社会の構築、炭素中立社会の実現**を早めることに貢献するとともに、社会基盤システムに起因する環境問題を解消し、**新たな環境の創造**にあらゆる境界をひらき取り組む。
7. （活力）**社会基盤システムの利活用によって交流・交易を促進**し、我が国が世界経済の発展に継続的に役割を果たすことに貢献するとともに、**土木から新しい産業を創造**して社会に役立てることにあらゆる境界をひらき取り組む。
8. （生活）百年単位で近代化を回顧し、先人が培ってきた地域の風土、文化、伝統を継承し、我が国やアジア固有の価値を十分踏まえた**風格ある都市や地域の再興と発展に貢献するとともに**、**地域の個性が発揮され各世代が生きがいを持てる社会の礎を構築**することにあらゆる境界をひらき取り組む。

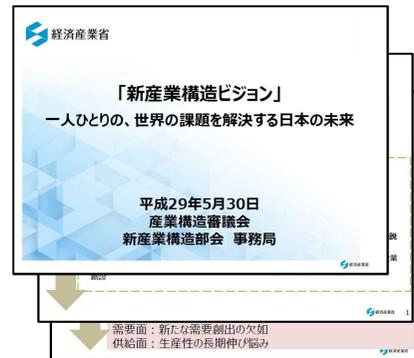
（目標とする社会の実現化方策）

9. 土木は目標とする社会の実現のため、総合性を発揮しつつ、「社会と土木の100年ビジョン」に明記された社会安全、環境、交通、エネルギー、水供給・水処理、景観、情報、食糧、国土利用・保全、まちづくり、国際、技術者教育、制度の各分野の短期的施策、特に国や地域における政策、計画、事業等の速やかな実行を先導し、**長期的施策の実現に向けた取り組みを継続**する。

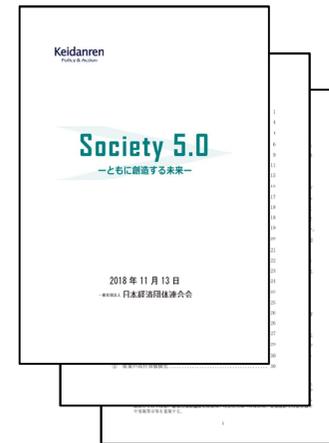
【参考】目指す社会像の例



不安な個人、立ちすくむ国家
(経済産業省)



新産業構造ビジョン
(経済産業省)



Society5.0
(経団連)



中長期モビリティビジョン
(日本自動車工業会)

タイトル	目指す社会像
不安な個人、立ちすくむ国家	<ul style="list-style-type: none"> 自由の中にも秩序があり、個人が安心して挑戦できる新たな社会 一律に年齢で「高齢者＝弱者」とみなす社会保障をやめ、働ける限り貢献する社会 子どもへのケアや教育の充実により不確実でも明るい未来
新産業構造ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 個々人の、日本の、世界の抱える課題にタブー無く、いち早く挑戦し、解決を目指す、それぞれの真のニーズに対応する社会 変革期に必要な若者の情熱と才能を存分に解き放ち、それゆえ、人材が育ち、世界からも才能が集まる社会 不確実性の時代だからこそ、多様性とチャレンジを一層許容し、アントレプレナーシップ(起業家精神)に富む社会 新技術等をいち早く取り込み、スピーディかつグローバルに展開・刷新することで、未来を変える期待感にあふれる社会 絶え間ないイノベーションにより、成長と格差是正の両立を実現する世界に類を見ない社会
Society5.0	<ul style="list-style-type: none"> 価値を生み出す社会【課題解決・価値創造】 誰もが多様な才能を発揮できる社会【多様性】 いつでもどこでも機会が得られる社会【分散】 安心して暮らし挑戦できる社会【強靱】 人と自然が共生できる社会【持続可能性・自然共生】
中長期モビリティビジョン	(2030年のモビリティ社会イメージ) <ul style="list-style-type: none"> 誰もが安全・安心に過ごせる世界 緑と笑顔にあふれた世界 クルマも、人も、モノも自由に行き交う世界 暮らしに「感動」をもたらすモビリティ社会